調査名　高齢者センターしなの（仮称）敷地地質調査委託　　ボーリングNo.

事業・工事名　　シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	新潟県長岡市信濃2丁目地内					北緯			
発注機関	長岡市			調査期間	平成 14年 7月 14日 ～ 14年 7月 16日			東経			
調査業者名	株式会社長大 電話（025-245-0271）		主任技師	岡崎	現場代理人	入江	コア鑑定者	足助	ボーリング責任者	松本	
孔口標高	KBM +0.14m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具 半自動落下
総掘進長	9.39m								エンジン	NS-80	ポンプ V-6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1	-0.86	1.00	1.00		盛土	茶褐			砂質粘土を主体とする。木片が混じる。		1.15	1/14	1	1/9	3/33	3							
	-1.56	0.70	1.70		砂質粘土	茶灰褐		軟らかい	ほぼ均質である。粘性はやや強い。微細砂が多量に混じる。		1.48												
2	-2.51	0.95	2.65		粘土質微細砂	茶褐	緩い		砂の粒径はほぼ均一である。全体に粘土が混じり、2.20～2.30m間では多量。含水は多い。	7/15 2.35 7/16 9.00 7/16 2.85	2.15	1/8	1	3/14	5/32	5							
3											2.47												
											3.15	9	10	14	33/30	33							
4	-4.26	1.75	4.40		砂礫	暗褐～茶褐	密な～非常に密な		2.90m付近まで、φ10～80mm程度の扁平な礫を主体とする。以深、φ10～50mm程度の円礫を主体とする。含水は少ない。マトリックスは下部に従い、細～粗砂を主体へと変化する。4.00m付近、含水は多い。		3.45												
											4.15	21	29/9		50/19	79							
5					玉石混じり砂礫	茶灰褐	非常に密な		φ30～60mm程度の円礫を主体とする。φ110～130mm程度の玉石が混じる。マトリックスは粗砂を主体とする。含水は多い。		4.34												
											5.15	19	18	13/7	50/27	56						7/14	
											5.42												
6											6.15	32	18/4		50/14	107							
											6.29												
7	-6.88	2.60	7.00								7.15	42	8/2		50/12	125							
					砂礫	暗灰	非常に密な		φ20～60mm程度の礫を主体とする。マトリックスは細・中砂を主体とする。8.70m付近、φ100mm程度の玉石が混じる。含水は多い。		7.27												
8											8.15	50/7			50/7	214							
											8.22												
9	-9.25	2.39	9.39								9.15	18	21	11/4	50/24	63						7/15	
											9.39												

図２　ボーリング柱状図（No. １）

調査名　高齢者センターしなの（仮称）敷地地質調査委託　　ボーリングNo.

事業・工事名　　シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	新潟県長岡市信濃2丁目地内					北緯			
発注機関	長岡市			調査期間	平成 14年 7月 12日 ～ 14年 7月 14日			東経			
調査業者名	株式会社長大 電話（025-245-0271）		主任技師	岡崎	現場代理人	入江	コア鑑定者	足助	ボーリング責任者	松本	
孔口標高	KBM +0.81m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具 半自動落下
総掘進長	12.34m								エンジン	NS-80	ポンプ V-6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1	-0.79	1.60	1.60		盛土	茶褐～暗褐			砂質粘土を主体とする。1.40m付近まで、瓦礫が混じる。		1.15	2/9	5/11	2/13	9/33	8							
										7/12 1.85 7/13 1.48 7/13 12.34 7/13 2.47	1.48												
2					砂質粘土	茶灰褐～暗灰		軟らかい	ほぼ均質である。粘性はやや強い。微細砂が多量に混じり、下部で多くなる。		2.15	1/14	1	1/8	3/32	3							
3	-2.54	1.75	3.35								2.47												
											3.15	1/9	2/11	6	9/30	9							
4	-3.69	1.15	4.50		砂礫	茶褐～茶灰	密な		φ10～40mm程度の礫を主体とする。マトリックスは中砂を主体とする。4.00m付近まで、茶褐色を呈し、砂分が多くなる。含水は少ない。		3.45												
											4.15	15	13	16	44/30	44							
5					玉石混じり砂礫	茶灰褐	非常に密な		φ10～50mm程度の礫を主体とする。マトリックスは中・粗砂を主体とする。含水は中位。φ100mm程度の玉石が混じる。		4.45												
											5.15	39	11/3		50/13	115						7/13	
	-5.09	1.40	5.90								5.28												
6											6.15	10	8	5	23/30	23							
	-5.99	0.90	6.80		砂礫	茶灰褐	中位		φ10～50mm程度の礫を主体とする。マトリックスは中・粗砂を主体とする。礫分が優勢である。逸水あり。		6.45												
7											7.15	46	4/1		50/11	136							
											7.26												
8					玉石混じり砂礫	暗灰褐	非常に密な		φ30～60mm程度の礫を主体とする。マトリックスは中・粗砂を主体とする。含水は中位。		8.15	50/8			50/8	188							
											8.23												
9											9.15	45	5/1		50/11	136							
											9.26												
10											10.15	36	14/3		50/13	115						7/13	
	-9.99	4.00	10.80								10.28												
11					砂礫	暗灰	密な～非常に密な		φ2～10mm程度の礫を主体とする。マトリックスは粗砂を主体とする。含水は多い。下部ではφ40mm程度の礫が混じる。		11.15	6	11	16	33/30	33							
											11.45												
12	-11.53	1.54	12.34								12.15	21	29/9		50/19	79						7/14	
											12.34												

図３　ボーリング柱状図（No. ２）